総ページ数： 43p

2022 年度

発酵メディア研究ゼミ論文

指導教員：チェン ドミニク

題目

「ビデオコミュニケーションにおいて動物型のアバターがもたらす効果の研究」

早稲田大学文化構想学部
表象・メディア論系
学籍番号：1T190559

武井楓

目次

1. 付録 1
1.1. 予備調査のアンケートデータ 1
1.2. 被験者別の制作物 1
1.2.1. A さん 1
1.2.2. B さん 1
1.2.3. C さん 2
1.2.4. D さん 2
1.2.5. E さん 3
1.3. 実験後のアンケート内容 3
1.4. 実験後のアンケートデータ 4
1.5. 実験後のインタビュー全文 5
1.5.1. 被験者 A（以下、A さん） 5
1.5.2. 被験者 B（以下、B さん） 11
1.5.3. 被験者 C（以下、C さん） 22
1.5.4. 被験者 D（以下、D さん） 30
1.5.5. 被験者 E（以下、E さん） 35

1. 付録

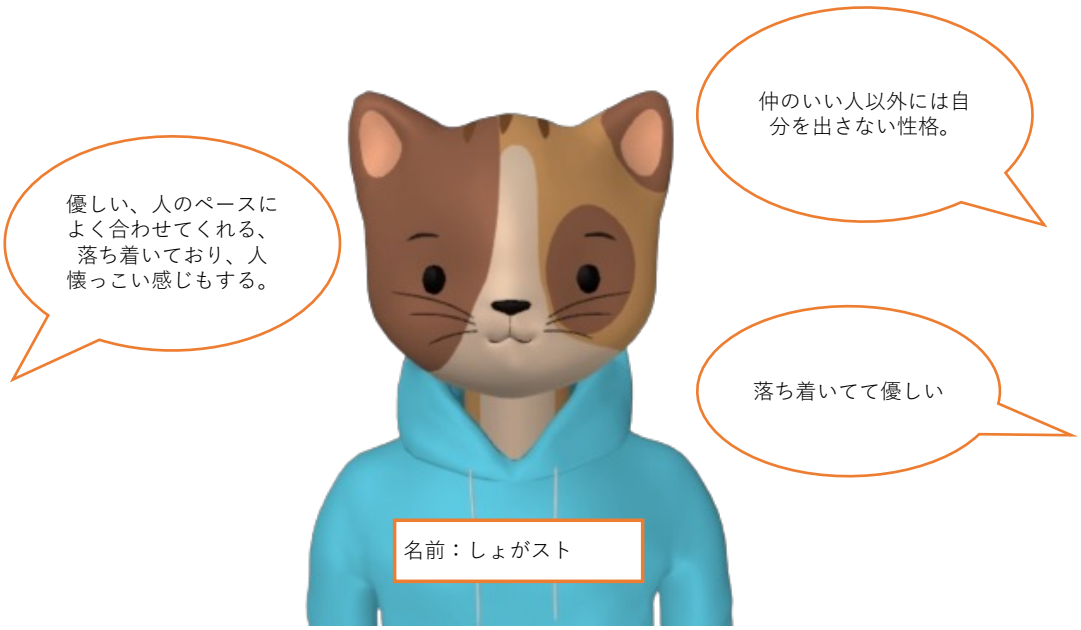
1.1. 予備調査のアンケートデータ

スプレッドシートに転記した元データ：

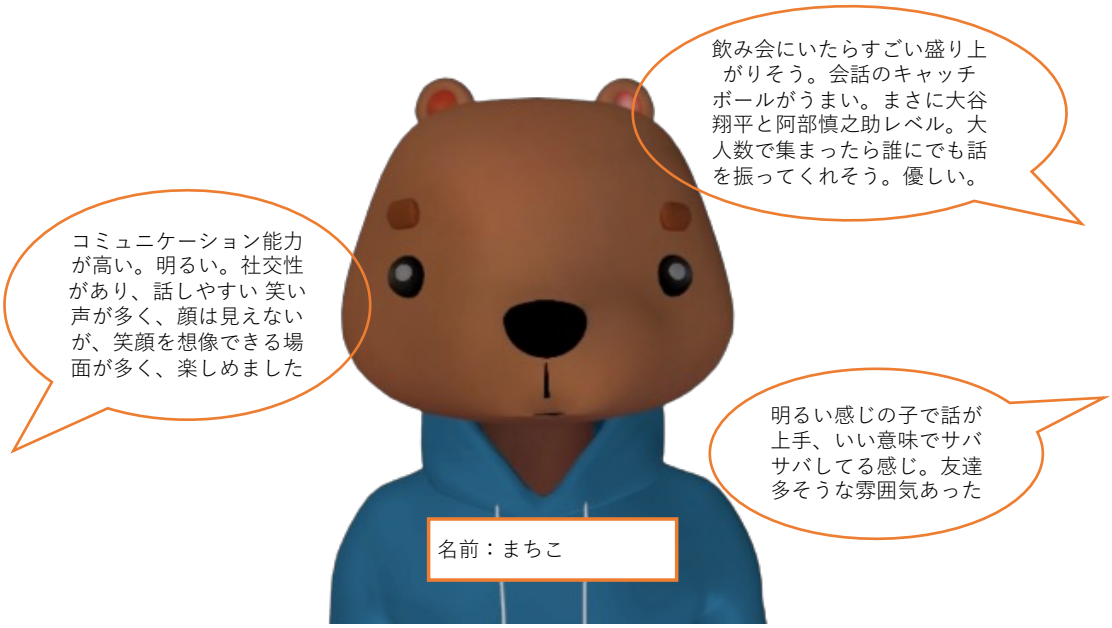
https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Z2evOqjBqaRN6wsx-lFZCzPYQGAwIcSvUH9XO8rMgrk/edit?usp=sharing

1.2. 被験者別の制作物

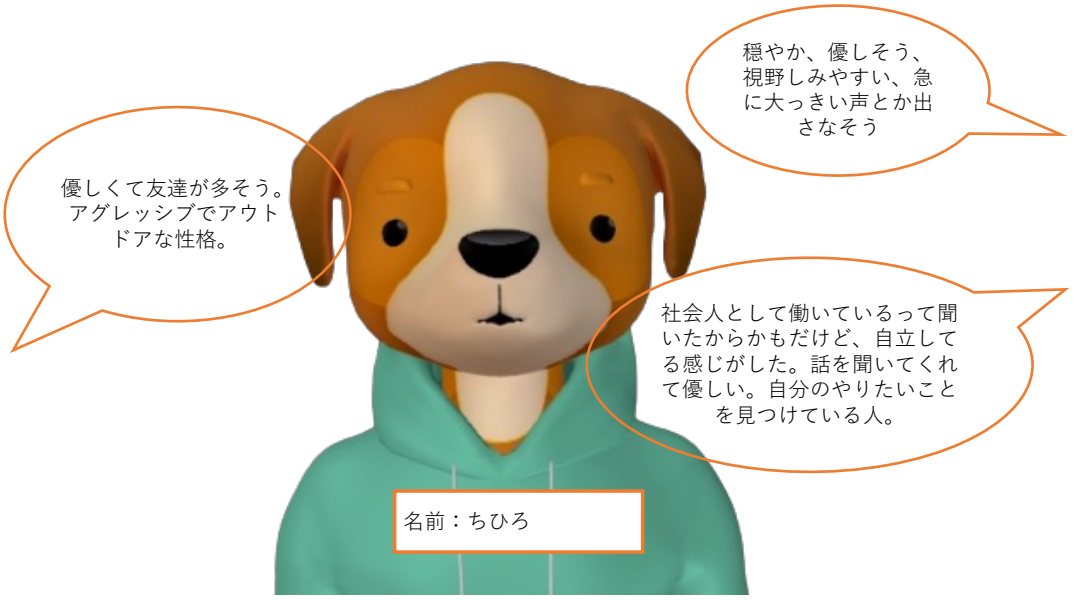
1.2.1. A さん



1.2.2. B さん



1.2.3. C さん



1.2.4. D さん



1.2.5. E さん



1.3. 実験後のアンケート内容

番号	質問項目
1	プロフィール
2	性別
3	年代
4	名前
5	動物型のアバターを使ってみての感想を教えてください。
6	フィードバックによって、自己イメージを害されなかったか。
7	アバターの変更はありましたか。
8-1	1 回目に何のアバターを選びましたか。
8-2	そのアバターを選んだ理由
8-3	アバターに対して命名した名前
9-1	2 回目に何のアバターを選びましたか。
9-2	フィードバックを踏まえて、そのアバターを選んだ理由
9-3	アバターに対して命名した名前（変更がない場合は「変更なし」と記入）
10-1	3 回目に何のアバターを選びましたか。
10-2	フィードバックを踏まえて、そのアバターを選んだ理由
10-3	アバターに対して命名した名前（変更がない場合は「変更なし」と記入）
11-1	最終的に何のアバターを選びましたか。
11-2	フィードバックを踏まえて、そのアバターを選んだ理由
11-3	アバターに対して命名した名前（変更がない場合は「変更なし」と記入）

1.4. 実験後のアンケートデータ

スプレッドシートに転記した元データ：

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1BqPJqL_9ZDeTFfxVYHBiwH9Ej-aWiAVNBZL3THu9Iu4/edit?usp=sharing

1.5. 実験後のインタビュー全文

1.5.1. 被験者 A（以下、A さん）

インタビュー実施日：2022 年 12 月 2 日

（アバターを使ったビデオコミュニケーションについて）

筆者：

最初にアバターを使ったビデオチャットについて質問したいです。今回アバターを使ってもらって緊張感とか疲労感みたいなものはあった？

A さん：

いや、全然疲れなかった。電話って感じだった。

筆者：

なるほど、よかった。継続的に何回か会話してもらって、そこでの変化みたいなものはあった？

A さん：

そもそもズームめちゃくちゃ嫌いで、内定式の時とかも顔移さないといけないのとか、嫌すぎて 2 時間とかやると、その後 5 時間ぐらい寝ないと回復できなくて。だから、最初やった時、その抵抗感があった。アバターの瞬きとかがリンクしているのを見て、「自分だ」みたいに最初思ったけど、1、2 分で慣れて、10 分経つのが早かったし、全然疲れずに会話を終えられた。

筆者：

確かに 10 分ね、みんなみちょっと短いような長いようなって言っていたから。

A さん：

そうなんだよね、最初どうしようみたいな空気であって、話が乗ってくると終わるみたいな。

筆者：

それは申し訳なかった。

A さん：

でも、ちょうどいいと思う。10 分だから、そんなに 3 回を通して変化はなかったけど、最後になるにつれて、もう自分の顔が映っているみたいなことは意識しなくなっていったのかなっていう感じ。

筆者：

ああ、なるほどね。画面上で見ていたのは、基本的には相手の顔ってことかな？

A さん：

そうだね。まあ、一応自分のアイコンは気になんなくなってはいったけど、相手のやつはやっぱり口が開いていると「開いている」と思うし、瞬たきしたり、首傾けたりするのは反映されているから見ちゃった。

（動物型のアバターについて）

筆者：

あー、なるほどね。了解です。A さんは猫のアバターを使っていたけど、振る舞いとかは変わったりした？

A さん：

めちゃくちゃ意識的に変わったことはないけど、自分が持っている猫に対するイメージみたいなのが、潜在的に出ていたのかもしれない。

筆者：

あー、なるほどね。

A さん：

逆に相手には私は例えばなんかウシとかパンダとか。そういう動物っぽさみたいなのを先入観で見て話してたかな。

筆者：

なるほど、そういうことか。わかりました。

他の人のアバターに対しては、どんな印象を受けた？

A さん：

パンダも犬も牛も好きな動物だから、ダンゴ虫とかだったら最悪だけどって感じ。しかも、最初パンダと猫で迷っていて、被ったら笑って会話できなかったかもと思った。

筆者：

なるほどね。会話の中で、そのアバターについて触れる機会はあった？

A さん：

いや、なかった。どこまでメタ的な会話をしていいのかがわかんなかったから、一応触れなかった。

筆者：

確かに外見的な特徴は控えるように言ってたからね。

ちなみに動物型のアバターからその人のパーソナリティは判断できた？

A さん：

私は先入観があったかな。おっとりしてとか、人懐っこいとか。そのアバターを選ぶっていう時点で、そういうのに似ているところがあったりするのかなみたいな。

筆者：

ああ、そういうことか。なるほど、面白いね。

（フィードバックとそのビジュアル化について）

筆者：一個ファイルを送りたいんだけど。

（元のアバターとフィードバックを集約したアバターの両方を見せる）

フィードバックを集約した画像と元の画像を比較してみて、今後コミュニケーションを行う時に、自信につながりそうか、不安になるのか、特に何にも思わないのかでいうと、どんな感じかな？

A さん：

そうだね、大体言われて嫌なことじゃないから、よかったかな。だけど、こういう印象を与えることがあるんだったら、こうしようみたいに今後なるかもしれない。例えば、自分を出さない性格みたいな。これはすごくよく言われるんだよね。人に対してバリアーを貼りやすいような発言をしちゃっているのかなみたいな。特に 今回は猫ちゃんの顔でやってるってことは、表情とか自分の顔ってよりも、会話とか喋り方、色とかの方が重要なのかなみたいな。

筆者：

あー、なるほどね。確かに。

フィードバックをもらってみて自己イメージは変化した？

A さん：

「えー、こんな一面あるんだ」みたいなのはそんななかったかもしれない。

筆者：

あー、じゃあ、ある程度想定の範囲内ぐらいのフィードバックだった？

A さん：

なんかよく人に言われることが多いなと思った。落ち着いてるとか、仲のいい人以外にはなんか冷たいみたいな感じで。

筆者：

なるほどね、ありがとうございます。

そういったフィードバックを繰り返してみて、自己イメージは変更しないまでも、コミュニケーションするにあたっての自信には繋がったかな？

A さん：

めちゃくちゃ普段に比べたら緊張もしないし、すごく良かった。でも、今後どんなコミュニケーションの状況でも自分に自信が持てるかって言われたらまた別かな。

筆者：

例えば、人型のアバターとか顔を出した時に、 フィードバックをもらっていたら変わっていたと思う？

A さん：

すごく嫌だけど、例えば、自分が Zoom に顔を出して喋ってるところで、フィードバックもらったら、そっちの方が多分強いと思っちゃう。

筆者：

なるほど。

A さん：

「うん、なんて自分に対する思いなんだろう」みたいなのが思えちゃうから、良くも悪くも影響があるかな。

筆者：

外見的な特徴とかも含まれてくるから強いよね。

A さん：

そうそう、強い。全然目が合わないとか、右を見がちとかそういうのは書かれるけどね。

筆者：

癖なんかちょっと言われんのは気になるね。ありがとうございます。

（アバターの命名行為について）

筆者：

アバターに名前をつけてもらって、アバターに対する印象は変わった？

A さん：

このズームのアバター自体がイラスト屋的なやつで、世の中にありふれているイメージ像みたいな感じだったから、愛着の入れやすさは、名前をつけることによって出たと思う。あと、私はその名前の猫を飼っている人がすごい好きで、その猫の名前をつけたから、その猫になっているのが嬉しいみたいなのはあったかな。

筆者：

オッケーです。その感覚は愛着度に近い？それとも所有感みたいな感じ？

A さん：

愛着ではあるけど、結局自分だから。

筆者：

あ、そしたら別では捉えてはないってことかな？

A さん：

うん。

筆者：

なるほどね、了解です。

（その他気になった点について）

筆者：

これまで話した人のアバターって覚えてる？

A さん：

あー。1 人目の人がパンダで、2 人目がイヌで、3 人目がウシだった。

筆者：

すごい、覚えてるんだ。 結構みんな忘れてるのかなと思ってた。

A さん：

覚えてる。やっぱり、1 回目は自分がパンダと迷ったから、イメージが残ってて。しかも、私はその相手のアバターを見ながら喋ってたから印象に残ったかな。色は全く覚えてないけど、動物は覚えている。

筆者：

あー、なるほどね。

最後に、話していて阻害になったこととか、改善できたらいいなみたいなことってあった？

A さん：

ないかな。強いていうなら、相手とアバターが被るとまたなんか違いそうだなと思った。

筆者：

そうだよね。確かに、それは面白い。

ありがとうございます。これでインタビューの方は終わります。

1.5.2. 被験者 B（以下、B さん）

インタビュー実施日：2022 年 12 月 2 日

（アバターを使ったビデオコミュニケーションについて）

筆者 ：

インタビュー始めます。

アバターを使った会話をして、緊張感や疲労感はあった？

B さん：

あー、あんまり普段の zoom よりなかったかも。

筆者：

なるほど、初対面人と話すっていう緊張感は若干ありつつ、普段の初対面での会話よりかは緊張しなかったってことかな？

B さん：

そう。普段は初対面のズームが結構ストレスなんだけど。今回のアバターはあんまり感度良くないし、表情も乏しいじゃん。こっちがよそ見とかしてても全然バレないじゃん。気抜いて喋りやすかった。

筆者：

癖みたいなところが見られないっていうのが良かったってことかな？

B さん：

あー、そう。身振り手振りとかに意識使わないでいいから。声はテンション高いけど、別に喋ってる自分はそうでもないみたいな。

筆者：

なるほど、なるほど。

B さん：

うん、めっちゃ喋りやすかった。

筆者：

ちょっとテーマから外れちゃうけど、逆に伝えづらさみたいな感覚はなかった？

B さん：

普段 zoom で会話するときに、結構身振り手振りを使ってごまかして会話してるんだけど、だから、普通に相手から見えないってわかってもやっちゃったりしてて、それはちょっともどかしさはあったかな。手とか振ってても、あー見えないじゃんって思って、一応手振ってた自分に気づいて、手があればいいのになって思って、でも手はないんだって思ってた。

筆者：

なるほどね、わかりました。

複数回の中で新たなに緊張感や疲労感などは生まれたりはしなかった？

B さん：

あー、みんな積極的に喋ろうとしてる感じがあったから、あんまりそれはなかったかな。

筆者：

なるほどね、わかりました。

会話中、自分のアバターか相手のアバターか、どっちを見るのが多かった？

B さん：

画面の外 4 割、相手の顔 4 割、自分 2 割ぐらいの感じ。

筆者：

あー、なるほどね、相手の顔の方が基本的には見てたってこと？

B さん：

そうだね。自分の顔は見ようとするより、思い出してみる感じだった。自分に比べて、相手の顔は多分実験に必要だろうなって思って、見なきゃって思ってたかも。

筆者：

なるほど、さっきの話題に戻るんだけど、みんなが一生懸命話そうとしてた感じは、身振り手振りが反映されにくいっていうのが理由なのか、それとも実験として話さなきゃいけない使命感が理由なのかでいうと、どっちかな？

B さん：

使命感まではいかないかな。普段私が初対面の人と話すと、すごい私がめっちゃ相手に質問することが多いんだけど、今回はあっちもちゃんと同じぐらいの配分で喋ろうとしてくれてるのをすごく感じた。

筆者：

なるほどね。

B さん：

なんか優しいなみたいな。

（動物型のアバターについて）

筆者 ：

なるほど、動物型のアバターについて質問を変えるんだけど、アバターを使っている時は振る舞いみたいなところを変えたりしてた？

B さん：

動物だからっていうよりか、アバターだからみたいな感じだったけど、なんかなんだろ口がちっちゃかったから、逆に楽しくて、口開けたり閉めたりしてた。あと、アバターの動作判定が弱いから、めっちゃ体揺らして遊んでた。

筆者：

あー、なるほどね。身振り手振りみたいな動作性に近い話かな。ビジュアル的な部分では、特にそのあの動物だからみたいなことはなかった？

B さん：

あー、でも、全体として可愛い動物だなとは思ってたよ。可愛い動物だから、わざと可愛い行動したとかはないけど、相手から見えてないから普段より揺れることには抵抗はなかったかな。

筆者：

そういうことね、違和感があまりなかったってことか。

B さん：

そう。だから、普段普通に顔を出してやってたら、こんなに揺れないだろうぐらいのノリで揺れながら喋ってた。

筆者：

じゃあ、無駄に揺れてたってことか。

B さん：
あ、そうそう。

筆者：

そういうことね、わかりました。面白いな。

他の人のアバターについての印象とかはどんな感じだった？

B さん：

やっぱりちょっと合わない人だと合わないなと思って見てた。怖いとかはなかったかな。あと、結構自分が動物に対するイメージ持ってたんだなっていうのを思った。

筆者：

あー、なるほどね。結構この動物はこのイメージだなっていう感覚はあったってことかな？

B さん：

そうね。でも、ライオンとか、キリンとかそういう分かりやすい動物ががいなかった感じもあった。

筆者：

ああ、そうだね、確かに。

B さん：

私が使ってたアバターとか、白クマとかと色が違うだけじゃんみたいな感じだった。だから、あんまり会話中の怖さとかはなかったかも。逆に、zoom の人も怖くないと思って、その動物を選んだのかなとか思った。

筆者：

なるほどね、そういうことか。ちなみに話してて、アバター自体について触れる機会はあった？

B さん：

あった気もする。筋トレの話とかしてる時に、軽く動物に触れたりとかしてたかも。強いからとか言って。

筆者：

そういうことか。本人の見た目とか全く遮断した状態で、相手のパーソナリティは判断できた？

B さん：

フィードバック書けてたから、わかっているとは思う。でも、全員に対して、穏やかみたいなこと書いてたなっていう気もしてる。

筆者：

あー、確かに。そこは動物の印象に引っ張られてる感覚はあった？

B さん：

あったかも。

（フィードバックとそのビジュアル化について）

筆者：

なるほど、オッケーです。次にフィードバックについての質問に移るね。

（元のアバターとフィードバックを集約したアバターの両方を見せる）

これが元のアバターとフィードバックを集約したアバターを比較してみて、これが今後のコミュニケーションにおいて、自信に繋がりそうか、不安になりそうか、特に何も思わないでいうと、どれかな？

B さん：

うーん、自分が思ってる自分と、みんなに見られてる自分はあんまり違いがなくて、イベマネ（イベントマネージャー）やってるから飲み会は得意だし、自分がめっちゃ笑ってるのもわかるから、あんまり違和感はないかな。でも、そのアバターに対して言われてるって考えたら、ちょっと不思議な気はする。

筆者：

ああ、そういうことね。

B さん：

みんなが合ってるって言ってくれてたけど、茶色いクマが飲み会得意そうには思えないし。

筆者：

そういうことね、予想通りのフィードバックをもらって、確証を得た感覚に近い？

B さん：

そうだね。うん、うん。

筆者：

顔を出してフィードバックもらった場合は、フィードバックのインパクトの大きさは変わったと思う？

B さん：

あー、多分あんまり変わんないと思う。

筆者：

あー、なるほど。じゃあ、動物のアバターが全く取り払われた状態でフィードバックをもらっても感覚としては一緒だった？

B さん：

えー。でも、それだとまず評価をもらうこと自体がちょっと嫌だったかもしれない。顔見えてる状態で、やっぱり外見的なところが評価に入ってきそうじゃん。初対面だし、知らない人だから、まあちょっとは外見に左右されるじゃん。だから、この言葉みたいなのは、ちょっとフィードバックもらうのは怖かったかも。

筆者：

ああ、なるほど。さっき確証が強くなったって聞いたけど、フィードバックしてて、アバターと自分の性格のマッチ具合は高くなった？

B さん：

そうだね。自分でも飲み会得意だと思ってたけど、やっぱり人から見てもそうなんだなあって感じ。だから、選ぶ時も自分で、そういう感じなんだろうなって思って、アバターを

選んでた。

筆者：

そしたら、アバターを選ぶときも、自分に合ってるって感覚で選んでた？

B さん：

そうだね。まあ、上げ上げな感じで選んだっていうよりかは、自分のイメージが親しみやすい感じだったから、それに合ってるなっていう感じで選んだかな。

筆者：

ちなみに、アバターとのマッチ具合が高くなって、それがコミュニケーションするときの自信になった？

B さん：

あー、やっぱり自信はちょっとついたかな。まあ、今までは勝手に自分が思ってるだけだったから。

筆者：

ああ、そういうことね。

B さん：

こういうふうに初対面の人からのフィードバックってもらう機会があんまりないから、みんな話しやすいって言ってくれて、今までよりも話しやすくなったかな。初対面怖くない感覚は増すかなって感じ。

（アバターの命名行為について）

筆者：

あ、そういうことね。

名前つけてもらったと思うんだけど、その後アバターに対して印象とかは変化した？

B さん：

あー、その付けた名前を人に呼ばれたりしないじゃん。自分だけだから、謎だなみたいな気持ちはあった。でも、やっぱり毎回フィードバック返す時に、「あ、この動物はまちこだったわ」って思って、動物自体に可愛いなって感覚は合った。でも、話す時にマチコらしさを意識したかって言ったら、それはないかな。

筆者：

なるほど。じゃあ、フィードバックもらう時は意識するけど、使ってる時はそんなに意識しなかったってことかな？

B さん：

そうだね、人の評価とマチコっていう生き物は、あんまり結びついてなかったかな。

筆者：

うん、うん、なるほどね。

じゃあ、さっき言った、愛着度は段階的に増えていった？

B さん：

あ、でも、毎回選び直すか、選び直さないかの選択があって、他のやつもいるけど、「やっぱりマチコしかいないわ」みたいになった。

筆者：

じゃあ、結構大袈裟だけど、変更する時の悲しさみたいなものは合った？

B さん：

まあ、そうだね。悲しいっというか、なんかやっぱりこれが 1 番しっくりくるよなみたいな感じ。

筆者：

それが自信に繋がる感覚はあった？

B さん：

自信っていうよりか、安心みたいな感じかな。

（その他気になった点について）

筆者：

了解です。あと、自分の気になるところでこれまで話した人のアバターは覚えてる？

B さん：

1 番最初が牛で、2 番目が犬で、3 番目がシロクマじゃない？

筆者：

あー、合ってる合ってる。すごい、やっぱり言えるんだ。

B さん：

うん、やっぱりフィードバックを書いたし、印象には残ってるかな。

筆者：

了解です。最後に、コミュニケーションしていて、阻害になった点とか、改善すべき点とかはあった？

B さん：

あんまりないかも。私は普通に楽しかった。

強いていうなら、手があった方が楽しいって思う。全然相手の顔も動かないから、表情が乏しいなってちょっと思ったかな。

筆者：

あー、なるほどね。

B さん

まあ、でもそれが楽しさに繋がってた感覚もあるかな。

筆者：

なるほど、ありがとうございます。 インタビューは以上です。

1.5.3. 被験者 C（以下、C さん）

インタビュー実施日：2022 年 12 月 2 日

（アバターを使ったコミュニケーションについて）

筆者：

インタビューを始めます。

アバターを使った会話をしていて、緊張感や疲労感みたいなのはあった？

C さん：

うん、特に感じなかったかな。初対面で考えたら、割となかったかな。

筆者：

いつもの初対面で話すときよりってこと？

C さん：

そうだね、一応それよりかは全然なかった。

筆者：

なるほどね、何回か会話をしていく中でも、緊張感とかが生まれたりもしなかった？

C さん：

多少はあったけどね。

筆者：

それはなんか増えたり、減ったり変化はしてた？

C さん：

うん、特になかったね。

筆者：

了解です。じゃあ、会話している間、自分の顔を見てたか、相手の顔見てたかっていうと、どっちが多かった？

C さん：

いや、もう断然相手だね。

筆者：

ああ、相手なんだ。なるほどね。自分の顔を見るときも少しあった？

C さん：

いや、そんななかったかな。

（動物型のアバターについて）

筆者：

なるほどね、動物型のアバターを使った会話を振り返ってみて、振る舞いが変わったとかはあった？

C さん：

まあ、確かにちょっとなんか優しくというか、それ少し心がけてたかもしれない。

筆者：

じゃあ、振り返ってみたら、あったかもしんないってことかな？

C さん：

うん、そうだね。

筆者：

なるほど、オッケーです。じゃあ、他の人のアバター結構見ていたって言ってたんだけど、そのアバターの印象はどうだった？

C さん

印象は 3 人ともすごく一致してた感じだね。 まさにその動物って感じだった。

筆者：

じゃあ、表面的な動物のアバターを見た時、印象的にはそんなに怖いとかはなかった？

C さん：

うん、やっぱりアバターだからちょっと怖さはあったけど、その動物と性格とか話し方が大体一致してたから、近い穏やかな部分は感じられたかな。

筆者：

なるほど、アバターが人型とかだったら結構印象は変わってたと思う？

C さん：

それだとちょっと変わるかもね。

筆者：

なるほどね。ちなみに人型だったら、どんな感じだと思う？

C さん：

いや、人型だと難しいなあ。ちょっと不気味というか、動物に比べて親しみづらさはあるよね。

筆者：

確かにね、オッケーです。話していて、それぞれのアバターについて触れる機会はあった？

C さん：

いや、ないかな。

筆者：

なかったんだ。まあ、10 分間だったしね。

C さん：

まあ、そうね。もう普通の会話しかしなかったね。

筆者：

なるほど。会話してときに、動物のアバターを通して、その人のパーソナリティは判断することはできた？

C さん：

うん、まあ時間が 10 分だからっていうのもあるけど、割とわかったよ。

（フィードバックとそのビジュアル化について）

筆者：

了解です。そしたら、次にフィードバックのことについて聞きますね。

（元のアバターとフィードバックを集約したアバターの両方を見せる）

2 つの画像を比較してみて、今後のコミュニケーションで自信に繋がりそうか、不安にな

りそうか、特に何も思わないかっていうと、どれかな？

Cさん：

まあ、フィードバックは素直に嬉しかったかな。

筆者：

そうだよね、そういう機会とかあんまりないからね。自信に繋がりそうっていうところでいくと、見た目を出した状態でのフィードバックとアバターを使った状態でのフィードバックだとどっちが良さそう？

Cさん：

いや、絶対アバター使った方がいいと思う。多分初対面で外見の顔を見て、この人は多分こういう人なんだろうなって気持ちが出ちゃうけど、アバターだと大体その動物で性格とかってわかるから、自分で印象を固定できそう。

筆者：

確かに、なるほど。 フィードバックもらってから、アバターと自分の性格のマッチ具合は段階的には上がっていった感覚はある？

Cさん：

うーん、そうだね。大体同じだったと思うけど。

筆者

あー、じゃあ最初選ぶ時とかも結構自分に合ってそうって思って選んだ？

Cさん：

うん、そうだね。

筆者：

じゃあ、フィードバックとかも意外なコメントとかは特にはなかった？

C さん：

そうだね、3 人目の子が合ってないって来たのはびっくりしたけど。

筆者：

ああ、なるほどね、確かに。じゃあ、アバターとのマッチ具合は若干でも高めになっていった感覚？

C さん：

うん。

筆者：

そしたら、自分の持っている自分のイメージと、他の人から持たれてるイメージを総合してみると、結果的にはプラスの方向には働いた？

C さん：

そうだね、なんか割とマッチしてたからよかったと思った。

筆者：

それはコミュニケーションにおける自信につながったと思う？

C さん：

最初は自分が犬のアバターを使ってて、犬っぽいのかどうかっていうのは少し不安だったけど、最初の 2 人は合ってるって話くれたから、まあ、自信には繋がったね。

（アバターの命名行為について）

筆者：

なるほどね、アバターに名前をつけることで印象は変わった？

Cさん：

そうだね、やっぱり筆者の家の犬を見てたからね。なんかそれっぽい感じがあったかな。

筆者：

ああ、なるほどね、じゃあ変化はあったってことかな。その変化が愛着とかに繋がったりはした？

Cさん：

そうだね、やっぱね、愛着湧くよね。俺ペット買ったことないから、ちょっとわかんないけど。

筆者：

なるほどね。そうなった場合、名前をつけるっていうことで、アバターに対して所有感みたいな、ペットみたいな感覚は湧いた？

Cさん：

しない。

筆者：

あー、なるほどね。感覚としては自分と一緒みたいな感じだったってことかな？

Cさん：

そうそう。

筆者：

オッケーです。そしたら、アバターに対して愛着が湧いたっていうのが、 コミュニケーションでポジティブになったりはした？

C さん：

そうだね。

（その他気になった点について）

筆者：

おお、なるほど。最後は自分の気になる質問なんだけど、これまで話した人のアバターは覚えてる？

C さん：

ああ、うん。覚えてる覚えてる。

筆者：

なるほどね。あとは、コミュニケーションしてて、逆に阻害になった点とか改善してほしい点とかはあった？

C さん：

もうそれは表情だね。表情が本当にわからないから少し不安だったかな。

筆者：

確かに。自分のアバターも動きが小さいわけだけど、自分が変な癖とか見られなくてが楽っていう節もいくらかあった？

C さん：

そうだね。確かに自分もあんまりそういうの見られたくないけど、俺は相手の方が見たいかなって思った。

筆者：

なるほど、この見ること・見られることのバランスが取れるといいって感じかな？

C さん：

そうだね。

筆者：

了解です。じゃあ、これでインタビューは以上になります。ありがとうございました。

1.5.4. 被験者 D（以下、D さん）

インタビュー実施日：2022 年 12 月 4 日

（アバターを使ったビデオコミュニケーションについて）

筆者：

じゃあ、インタビューを始めますね。アバターを使ったコミュニケーションしてて、緊張感とか疲労感みたいなものはあった？

D さん：

えっとー、やっぱり顔出してる時よりは緊張感はなかったかな。あ、でも、沈黙が辛く感じたかもしれない。話題を持ってこないとみたいな。なんか表情がないからなのかな。

筆者：

なるほど、複数回の会話の中で緊張感や疲労感の変化はあった？

D さん：

あまりなかったかな。

筆者：

あー、なるほど。了解です。じゃあ、会話中には基本的に自分の顔を見てたか、相手の顔見てたかっていうと、どっちが多かった？

D さん：

元々相手の表情見てたかな。 3 割ぐらいで自分のことを見てて、7 割ぐらいで相手を見てたかな。

筆者：

なるほどね。それは自分の顔を気にしなくていいっていう感覚は合った？

D さん：

まあ、慣れてきたっていうのは多分あると思うんだけど、最初は自分の表情を 6 割ぐらいで、相手 4 割だったかな。だけど、それが 7 割ぐらいで、相手優先になったかな。だから、自分の表情は気にせずに話せたてたのかな。

（動物型のアバターについて）

筆者：

了解です。少しテーマを移して、動物のアバターを使ってる時に、振る舞い方は変えてた？

D さん：

あー、どうなんだろう。いや、ちょっとあるかもしれないな。俺最初 2 回パンダで、最後 2 回がどっちもホッキョクグマで行ったんだけど、パンダがどっちも合ってるっていうフィードバックをもらってたんだよね。なんでホッキョクグマに変えたかっていうと、可愛くておっとりしてるっていうイメージって言われたから、より自分の中でその印象に近い白クマを選んだよね。それで言うと、キャラクターが変わってるし、自分の中で優しくて、穏やかで可愛いっていう印象でシロクマを選んだから、多分話し方も変わってると思う。

筆者：

ああ、なるほどね。じゃあ、ある程度その動物へのイメージみたいのを自分の中では持ってたのかな？

D さん：

あったね。あったから変わってると思う。

筆者：

ああ、なるほどね、ありがとう。他の人のアバターの印象については、どんな感じだった？

D さん：

でも、やっぱり怖そうな人でもそんなに怖く感じなかった。怖そうな人ってそもそもいなかったんだけど、アバターが全部可愛いかったから、やっぱり初対面の印象としては丸く感じたかな。

筆者：

了解です。会話中にアバターについて、話す機会はあった？

D さん：

それはしてないかな。

筆者：

なるほど。じゃあ、他の人のパーソナリティみたいなことは、話し方から判断することはできた？それとも先入観を含んで判断してた？

D さん：

先入観は絶対あったと思うよ。例えば、ウシを選んでる E さんとかは、それを選ぶのってなんか珍しい人だろうなとか思った。あと、結構渋くて低い声で来たから、なんかそういう人だろうなとかも思った。

（フィードバックとビジュアル化について）

筆者：

了解です、わかりました。そしたら、またテーマを移して、フィードバックについて聞きたいです。

（元のアバターとフィードバックを集約したアバターの両方を見せる）

この 2 つの画像を比較してみて、 これが今後のコミュニケーションにおいて、自信に繋

がりそうなのか、不安になるのか、特に何も思わないのかっていうとどれに当たる？

D さん：

いや、でも、ここまで話し方とかでフィードバックもらったことないから、そういう意味で言うと、自信になるし嬉しかった。

筆者：

あー、なるほど、確かにあまり機会はないか。そしたら、アバターと自分の性格のマッチ具合みたいなのは、フィードバックをもらってる間に変化してきた？

D さん：

うん、してると思う。

筆者：

それは改めて自分の新たな一面を知ったのか、自分のイメージの確証を得たのかで言うと、どっちかな？

D さん：

自分でもやっぱり自分の印象みたいなのがあるから、 確証を得たって方に近いかな。

筆者：

なるほど、そしたら、総合的なイメージを踏まえて、自信っていうところには繋がりそう？

D さん：

まあ、純粋に自分の話し方と、自分の思ってるキャラクターとかに相違がなかったってことは、自分はそのパーソナリティーで生きていいと思ってて。俺ってよく笑顔になるから見た目で伝わることって大きいと思うんだけど、声とか微弱なアバターの動きだけでも、それが伝わったわけだから、すごい自信になると思う。

（アバターの命名行為について）

筆者：

ありがとうございます。了解です。そしたら、またテーマを移りますね。アバターに実際に名前を付けてもらって、アバターに対する印象は変化した？

D さん：

俺色にしか焦点当ててなくて、それ以外に特徴があんまり見つけらんなかったってのあるんだけど、特に印象は変わってないかな。

筆者：

オッケー。みんな同じような印象のアバターみたいな感覚だったと思うんだけど、実際に自分が名前をつけることによって、所有感みたいな感覚は湧いた？

D さん：

ああ、あると思う。被ったらやばいなとかは思った。例えば、俺が白クマに変えった後にパンダの人と会話してたら、多分俺と似たパーソナリティなのかな思ってただろうから、「あのパンダは自分のもの」っていう認識がちょっとはあると思う。だから、そういう意味で言うと、所有感というか、自分のものっていう感覚はあったかもしれない。

筆者：

なるほど、オッケーです。じゃあ、アバターと自分を別で捉えてたのか、同一視して考えてたのかで言ったら、どっちかな？

D さん：

ちょっとシロクマにした時に、シロクマの印象に話し方を寄せてたってことは、やっぱ完全に別々にしてたわけじゃなくて、 同一視してる部分はあったんじゃないかなって思う。

（その他気になった点について）

筆者：

了解です。そしたら、最後は自分の気になるところで、これまで話した人のアバターは覚

えてる？

D さん：

E 君はウシで、 C 君は犬でとか、猫が A ちゃんかな。

筆者：

なるほど、すごいね。

そしたら、最後になんかこう。逆にコミュニケーションにおいて、阻害になった点、改善してほしい点とかはあった？

D さん：

アバターの仕様かはわかんないけど、口が全体的に小さくて、目とかも小さかったから、もう少しはっきり反映されるようになったら、読み取りやすくなるからいいのになって思った。

筆者：

あー、やっぱりそうだよね。じゃあ、一旦これでインタビューは切ります。

ありがとうございました。

1.5.5. 被験者 E（以下、E さん）

インタビュー実施日：2022 年 12 月 4 日

（アバターを使ったビデオコミュニケーションについて）

筆者：

インタビューを始めます。アバターを使った会話をしてて、緊張感とか疲労感みたいなのありましたか。

E さん：

なかったです。

筆者：

了解です。結構複数回にわたってやってもらったんだけど、そこで新たに生まれたりとか、変化したりみたいなとかもなかった？

E さん：

特になかった。

筆者：

じゃあ、普通の初対面の会話でと比べたらどんな感じだった？

E さん：

自分の顔が映ってないから、実際会う時よりかは緊張しなかった。

筆者：

なるほどね、会話中には自分の顔を見てたのか、相手の顔を見てたのかでいうと、どっちの方が多かった？

E さん：

相手の顔かな。

筆者：

あー、それはなんか自分の顔気にしなくていいっていうところから？

E さん：

そう、まさにそう。

（動物型のアバターについて）

筆者：

そういうことね。じゃあ、動物のアバターを使ってる時に、振る舞いを変えたりした？

E さん：

まあ、ゆっくり喋るようにはしてたかな。ウシのイメージで。

筆者：

あ、そういうことか。じゃあ、動物に対するイメージはそれぞれであったってことかな？

E さん：

そうだね。あった、あった。

筆者：

ああ、なるほど。人のアバターを見て、印象はどうだった？

E さん：

総合的に見ると、可愛かったかな。怖いとかはなかった。

筆者：

ああ、なるほどね。動きが小さいとかっていう意見もあったけど、それについてはどう思った？

E さん：

声は笑ってるけど、アバター自体は口が開いてただけだったから、もうちょっと笑ってる対応をしてほしいなとは思った。

筆者：

なるほど、表情が見えないっていうのは、怖さには繋がったりはした？

E さん：

ああ、したしたした。そう、表情がわからないから。

筆者：

なるほど、会話の中でそれぞれのアバターについて触れる機会はあった？

E さん：

考えたらなかったかも。

筆者：

あー、なるほどね。じゃあ、基本的にはアイスブレイクがずっと進んだって感じ？

E さん：

うん、そうそう。

筆者：

なるほどね。動物型のアバターを通して、その人のパーソナリティは判断することはできた？

E さん：

できたね。

筆者：

オッケーです。さっき動物に対してそれぞれイメージを持ってたって言ってたけど、その時に先入観みたいなのもあった？

E さん：

うん、そう言われたらそうかもしれない。自分のその動物に対するイメージ。に持っていっちゃったとかっていうのもあると思う。

筆者：

あー、なるほどね。それは結果的に相手を判断する上での要因になった感じ？

E さん：

そうそう、一部にはなったよね。

（フィードバックとそのビジュアル化について）

筆者：

あ、なるほど、了解です。フィードバックの方にテーマを移すね。

（元のアバターとフィードバックを集約したアバターの両方を見せる）

この二つの画像を比較してみて、これが今後の今後のコミュニケーションで自信に繋がりそうか、不安になりそうか、特に何も思わないのかっていうとどういった印象ですか？

E さん：

自信にはなるよね。

筆者：

なるほど、了解です。フィードバック通して、アバターと自分の性格はマッチしていく感覚はあった？

E さん：

うん、なんか意外と伝わるとこ伝わったって感じ。

筆者：

あー、なるほどね。最初アバターを選ぶ時も、自分はこのアバターだろうなって思って選んだ？

E さん：

俺割と初対面の人と話すとき、ゆっくり落ち着いて話すようにしてて、畳みかけないよう

にするから。見た目は別に寄せてはないんだけど、俺のイメージに合わせてた。

筆者：

そういうことか。フィードバックもらった時は、意外なコメントとかはなかった？

E さん：

まあ、「話聞くのが上手」に関しては、あんまり言われたことないから、それはちょっと意外だった。

筆者：

ああ、なるほどね。じゃあ、フィードバックは自分の知らない一面を知るって点と、想像していた面の確証を得るって点の 2 つの役割にはなってた？

E さん：

なってたね。

筆者：

なるほど、ありがとうございます。じゃあ、総合的に自分のイメージがわかって、それが結果的にコミュニケーションする時の自信になったっていう感覚はある？

E さん：

うん、なったね。

（命名行為について）

筆者：

了解です。次にテーマを移すんだけど、実際にアバターに名前を付けて、アバターに対する印象は変化した？

E さん：

いや、そんなに変わってない。

筆者：

じゃあ、普通になんかなんとなく名付けたって感じ？

E さん：

そうだね、牛だから。

筆者：

なるほど、なるほど。結構使用していて、アバターに対して愛着とかっていうのは湧いた？

E さん：

冷たいけど、愛着はないかな。

筆者：

ああ、なるほど、そのままの感情だったってことね。

E さん：

そう

筆者：

了解です。じゃあ名前をつけるっていう行為で、 愛着とは別に所有感みたいな感覚とかにはなった？

E さん：

あ、その感覚にはなったかも。「ウシと言ったら俺でしょ」みたいな。

筆者：

ああ、なるほどね。じゃあ、自分だけのみたいな感覚はあったけど、愛着はあまり生まれなかったってことかな？

E さん：

うん。

筆者：

なるほど、その感覚がコミュニケーションにおける自信とかに繋がったりしてた？

E さん：

してたね。

（その他気になった点について）

筆者：

なるほど、了解です。最後に個人的に気になることを聞くんですけど、これまで話した人のアバターとかって言える？

E さん：

最初がクマで、2 人目の子が猫、3 人目がグリズリーかな。

筆者：

ああ、なるほど。了解です。まあ、 ある程度みんな印象には残ってたかな？

E さん：

うん。

筆者：

オッケーです。コミュニケーションしていて、阻害になった点とか、改善すべき点とかはあった？

Eさん：

やっぱり、動きが小さいかな。表情の動きって大事だから、そこはもうちょっと対応してほしいかな。

筆者：

ああ、なるほどなるほど。逆に自分が見られないことで、変な癖とかが見られないっている利点があるって意見をもらったんだけどどう思う？

Eさん：

いや、別に俺は大丈夫かな。相手が話しやすければ。でも、あんまりがっつり対応されると、アバターの意味もなくなるのかなとも思う。喜怒哀楽くらいはしっかり対応してほしいなみたいな。

筆者：

なるほど、感情部分みたいなところは結構いいかもね。

ありがとうございます。これでインタビューは以上になります。